

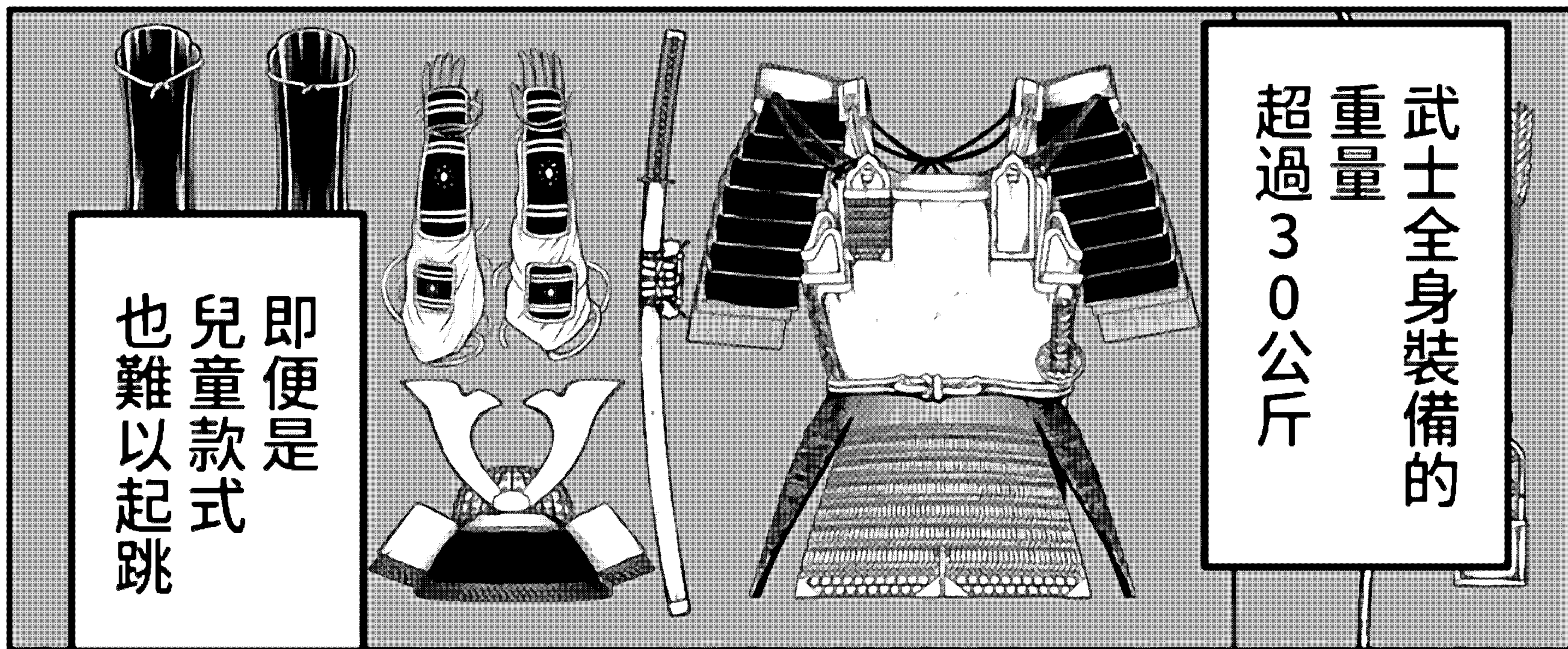
頼重軍 第一日宿營地

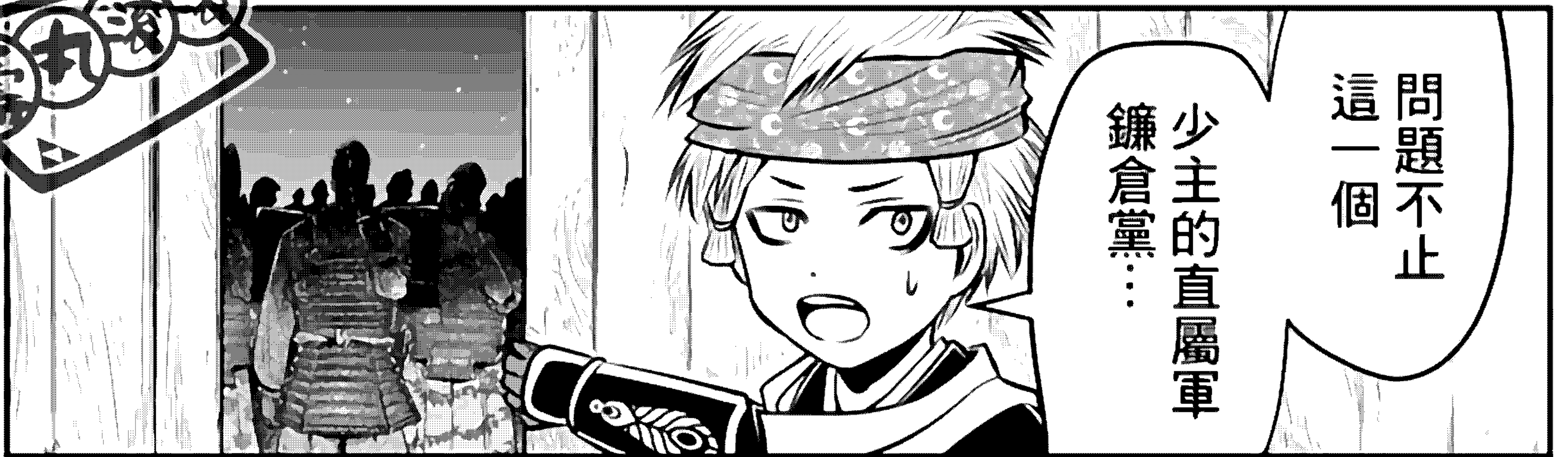


禁營利禁講漫禁盜轉

混成連合會

@





問題不止
這一個

少主的直屬軍
鑣倉黨……



完全
沒有幹勁

幹嗎都
在挖鼻！

逃町奇若君

第62話 鎧甲1335

まつい ゆうせい
松井優征



而且他看起來
霸氣全無



哎……

雖然是
賴重殿下的
命令

但這麼重要的
吊唁之戰
卻要我們聽從
一個孩子的指揮……



眾人便
接連效仿他



大家
心灰意懶地
進軍

某位士兵
中途開始挖鼻



這算
什麼！

當挖鼻的人數
到超過十人的
瞬間
整個百人大軍
居然不約而同地
開始挖鼻了！



對鎧甲的適應
以及與鑣倉黨的磨合

原本都預定在
最後一個月完成



怎麼辦
賴重大人
還是把時行大人的
真實身份
告訴大家吧？

足利派出天狗
真是打了
一手好牌

我們過於警惕
他們的監視

導致
很多準備工作
都延後了

可是
褪下鎧甲
不但很危險……

還有損
大將的威嚴

他的鎧甲造型
我也期待許久了

賴重殿下

我想贏得勝利
獲得鎌倉黨的
認同

所以希望你
允許我脫下
這身鎧甲

這次不論作戰
還是施展新技能

都必須讓少主
輕裝上陣



他就是傳聞中
全裸逃亡的
變態小孩嗎

啊啊……

是全裸逃亡的
變態小孩

我想褪去
所有累贅……
毫無顧忌
隨心所欲地逃！



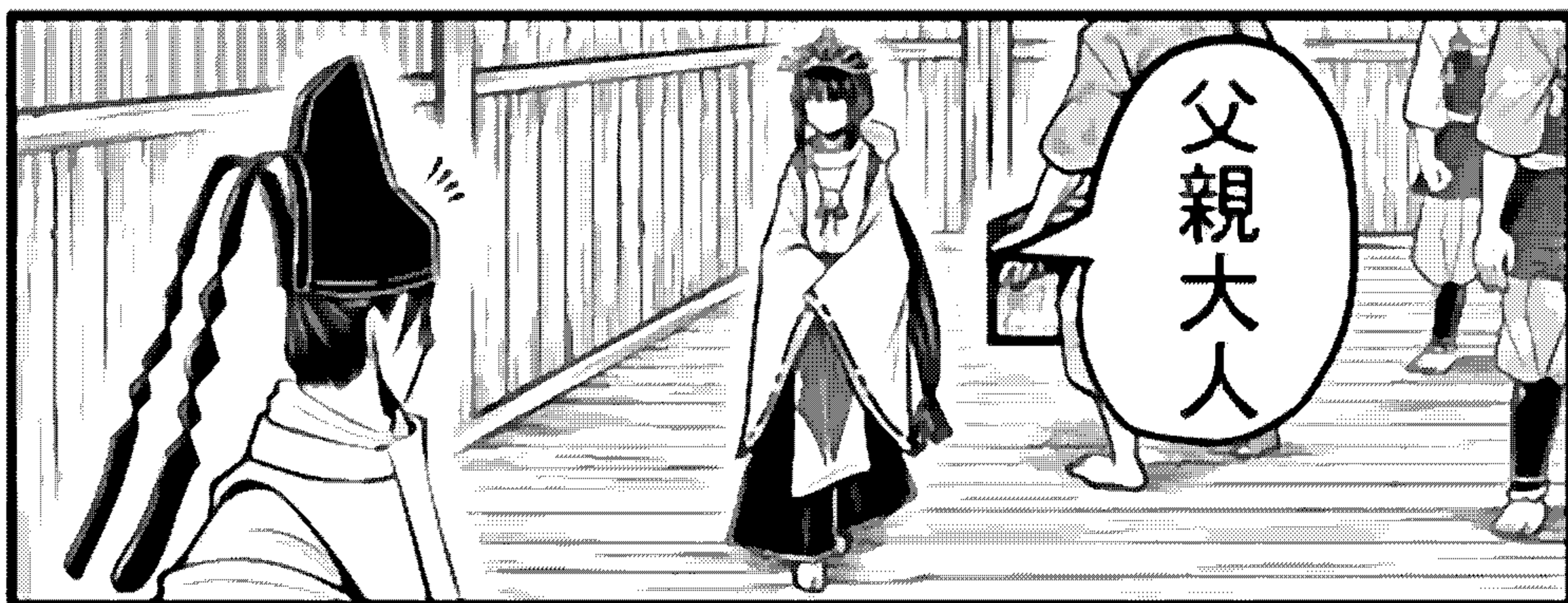
……您就
這麼想脫嗎

沒錯我想脫



兄長
專用的……

適合逃跑的
鎧甲

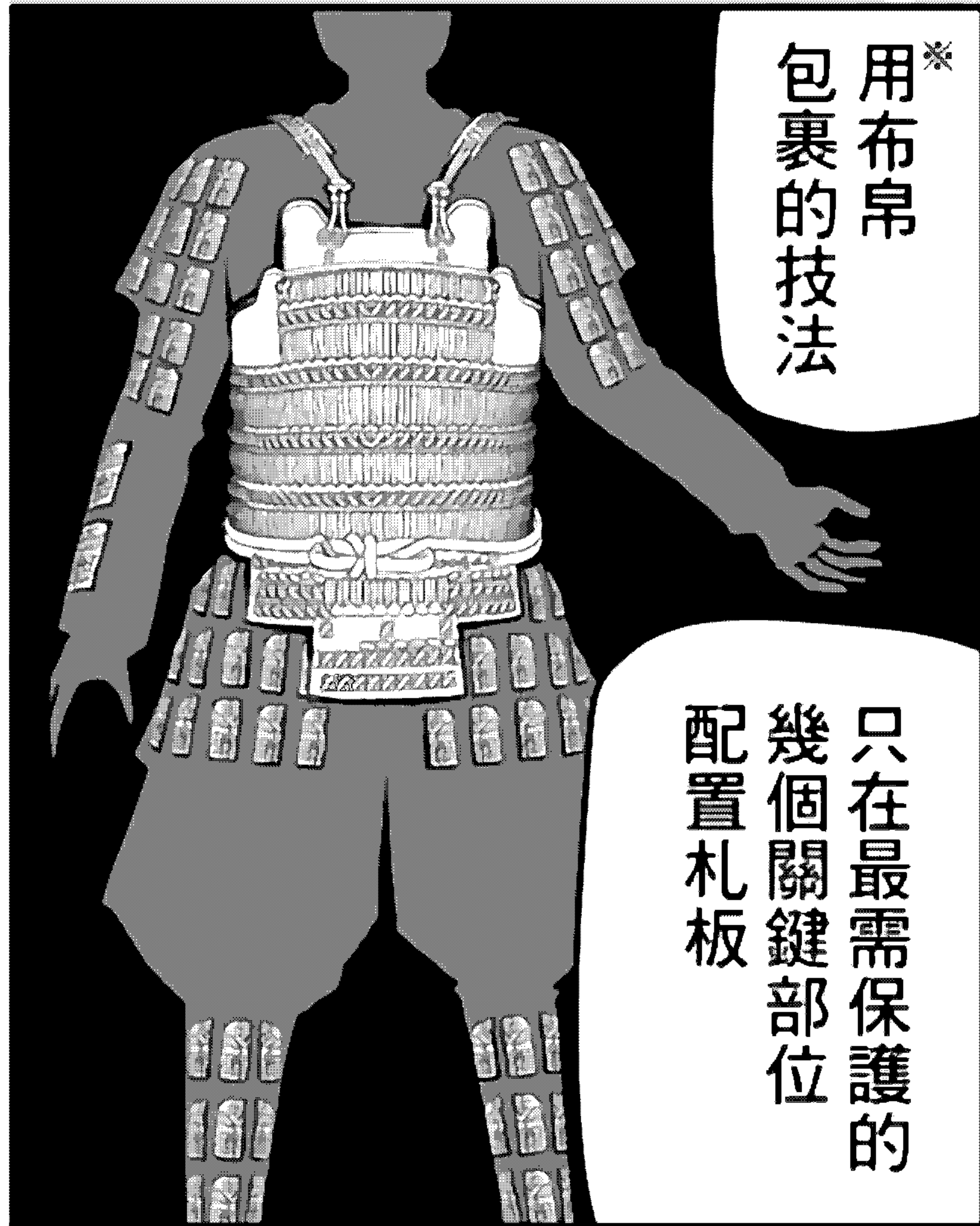


父親大人



以防萬一……

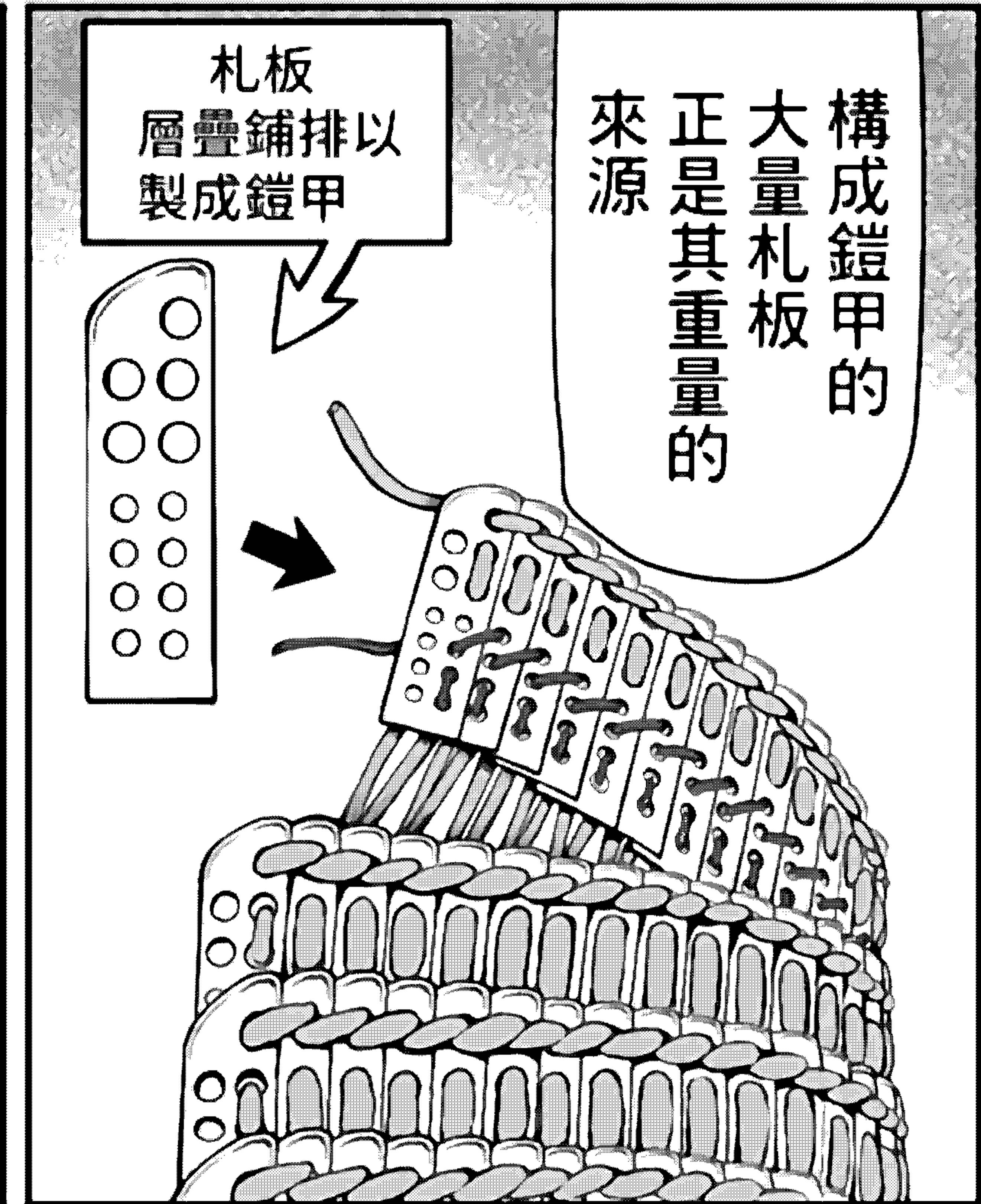
我進京前就
拜託鎧甲師傅
試做了這一身



※用布帛
包裹的技法

只在最需保護的
幾個關鍵部位
配置札板

※在布匹背面直接縫上札板的鎧甲。主要為下等兵使用。



追求輕量化及
更高的靈活度
與閃避率

將服裝與鎧甲
融為一體
大小厚度
也削減到極致

從這個時代起

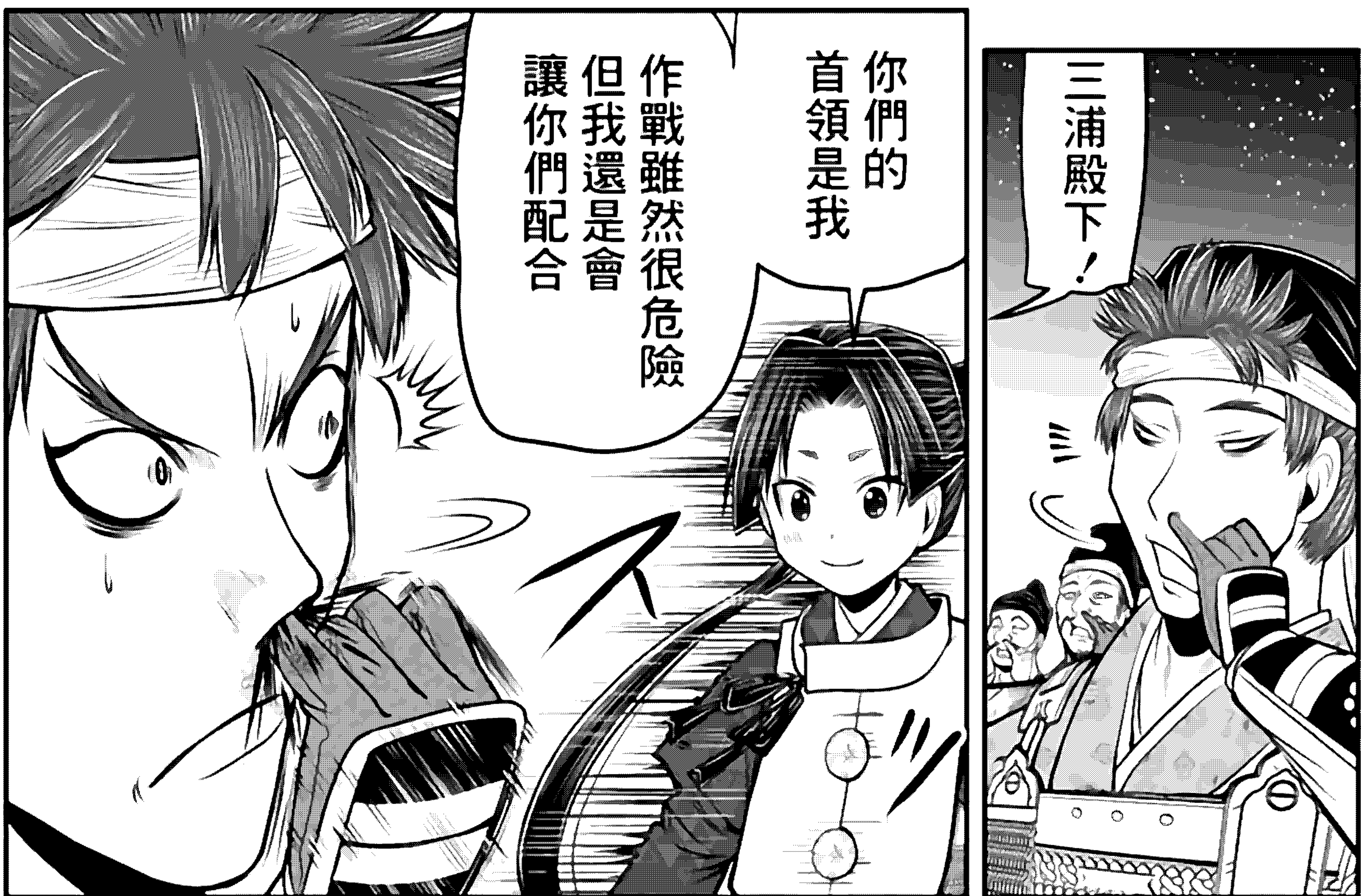
武士鎧甲
踏上了
輕薄化之路

靈活度
逐漸受到重視

武士們紛紛
創造出各自的
新時代鎧甲

…
嗯！

這下
就能動了！



你們的
首領是我

作戰雖然很危險
但我還是會
讓你們配合

三浦殿下！



等我們拿下
首場勝利

你們一定再也
不會用那根手指
挖鼻了

ズ
ミ

什
麼？

換了一身衣服
就氣場全開了



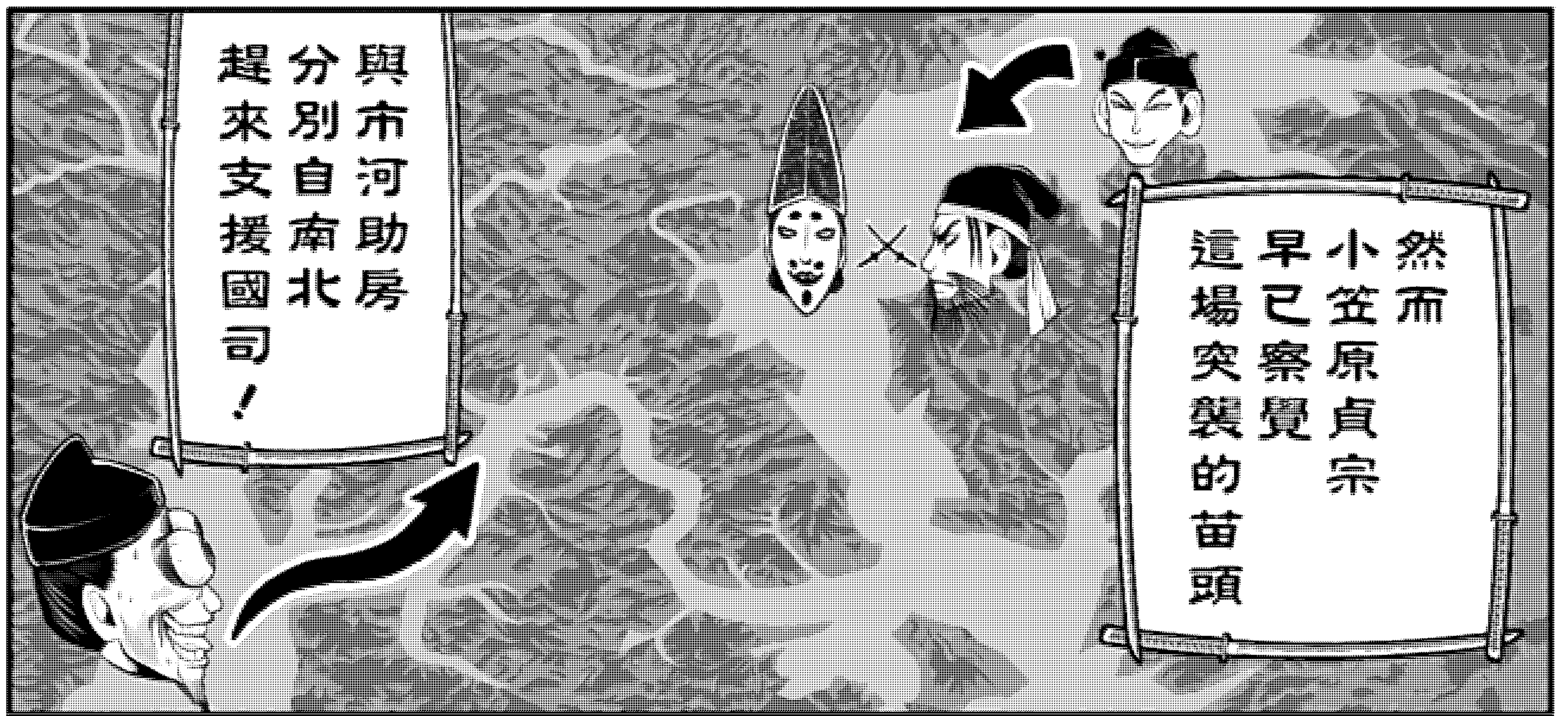
出發！
趁此機會
一雪前恥！

大戰由
保科軍襲擊
國司一戰
揭開序幕

眾望
所歸

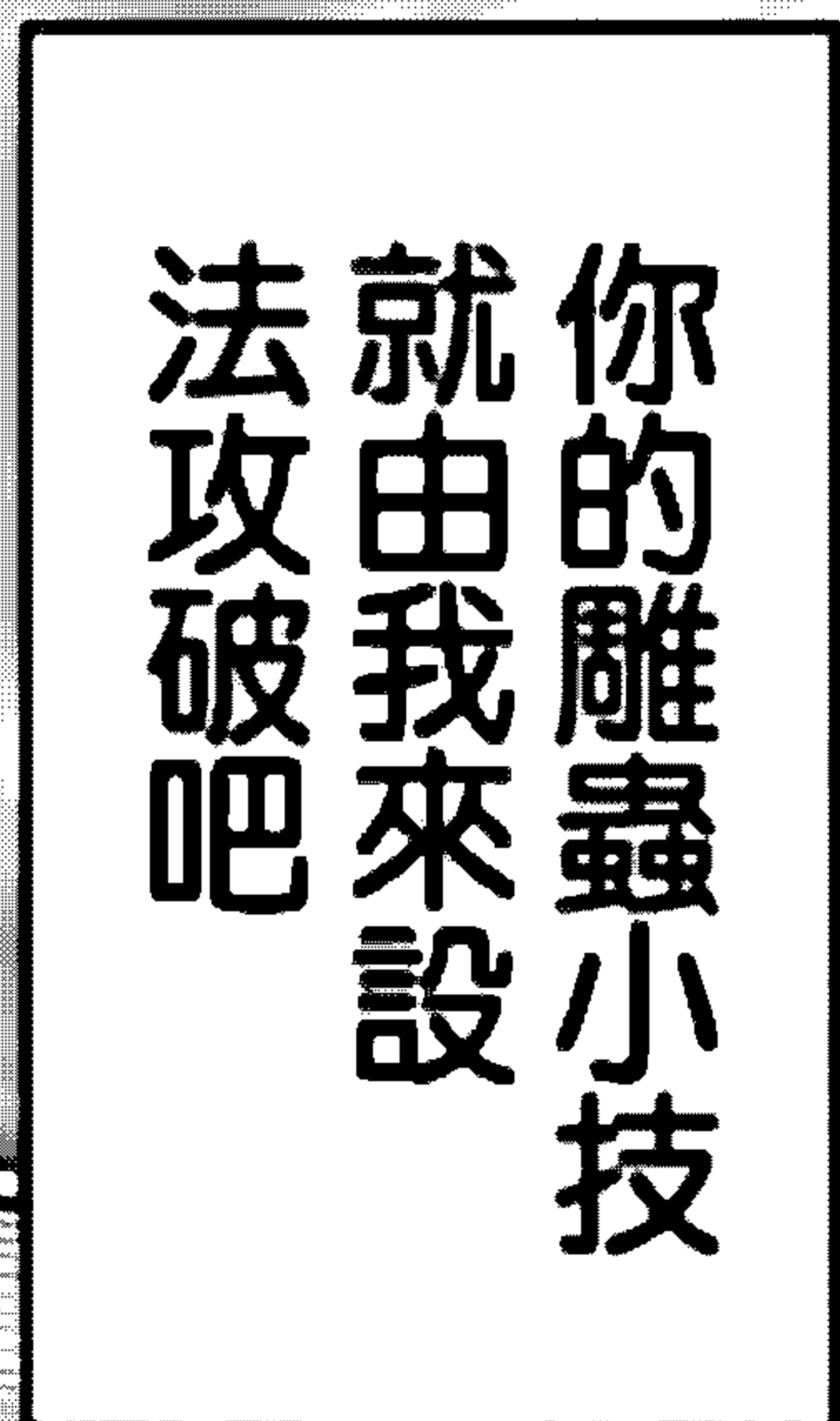
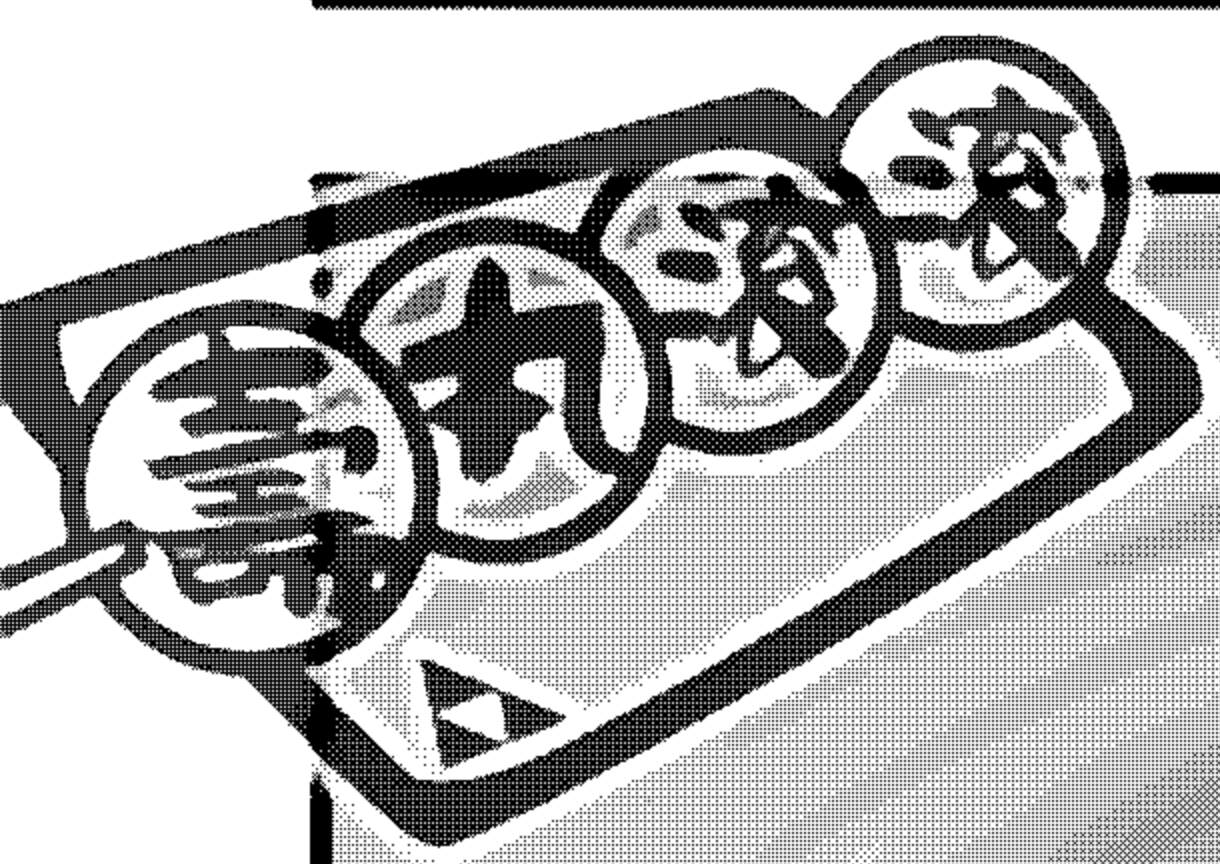


嵌字 小呱 @



然而
小笠原貞宗
早已察覺
這場突襲的苗頭

與市河助房
分別自南北
趕來支援國司！



賴重軍襲擊
貞宗軍的瞬間

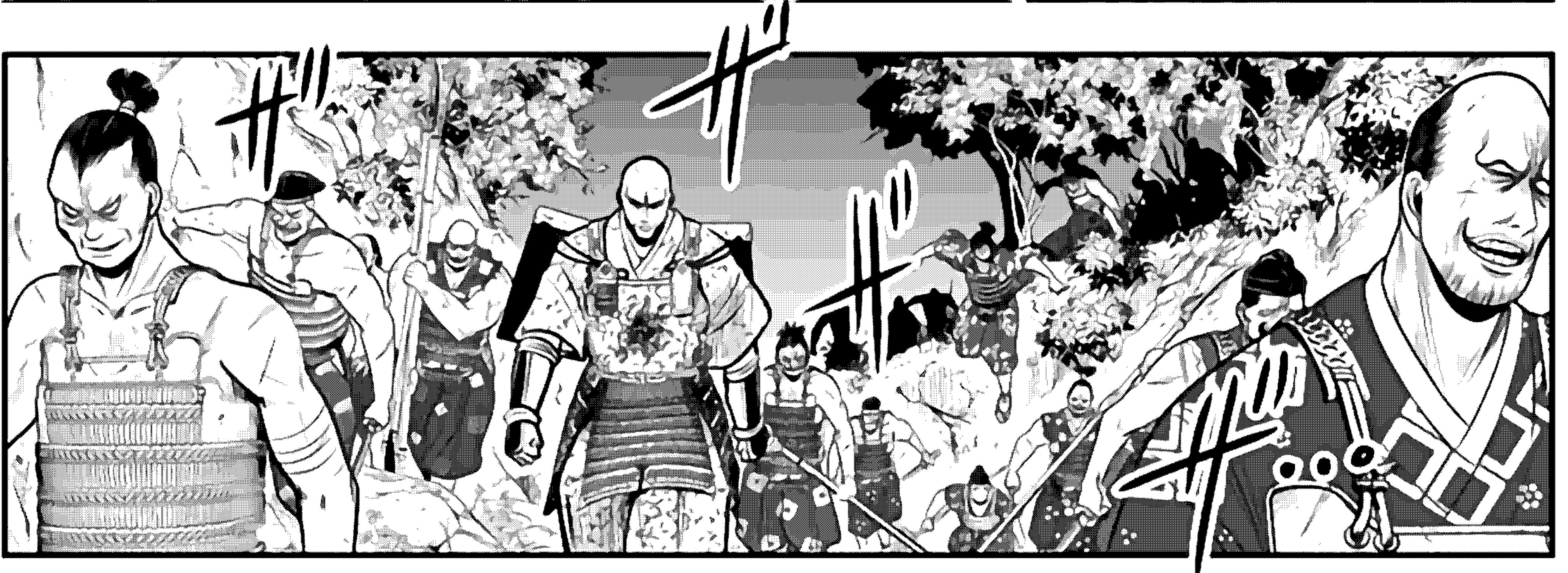
我軍就從
他們背後的山中
發起突襲



給他來一出
螳螂捕蟬



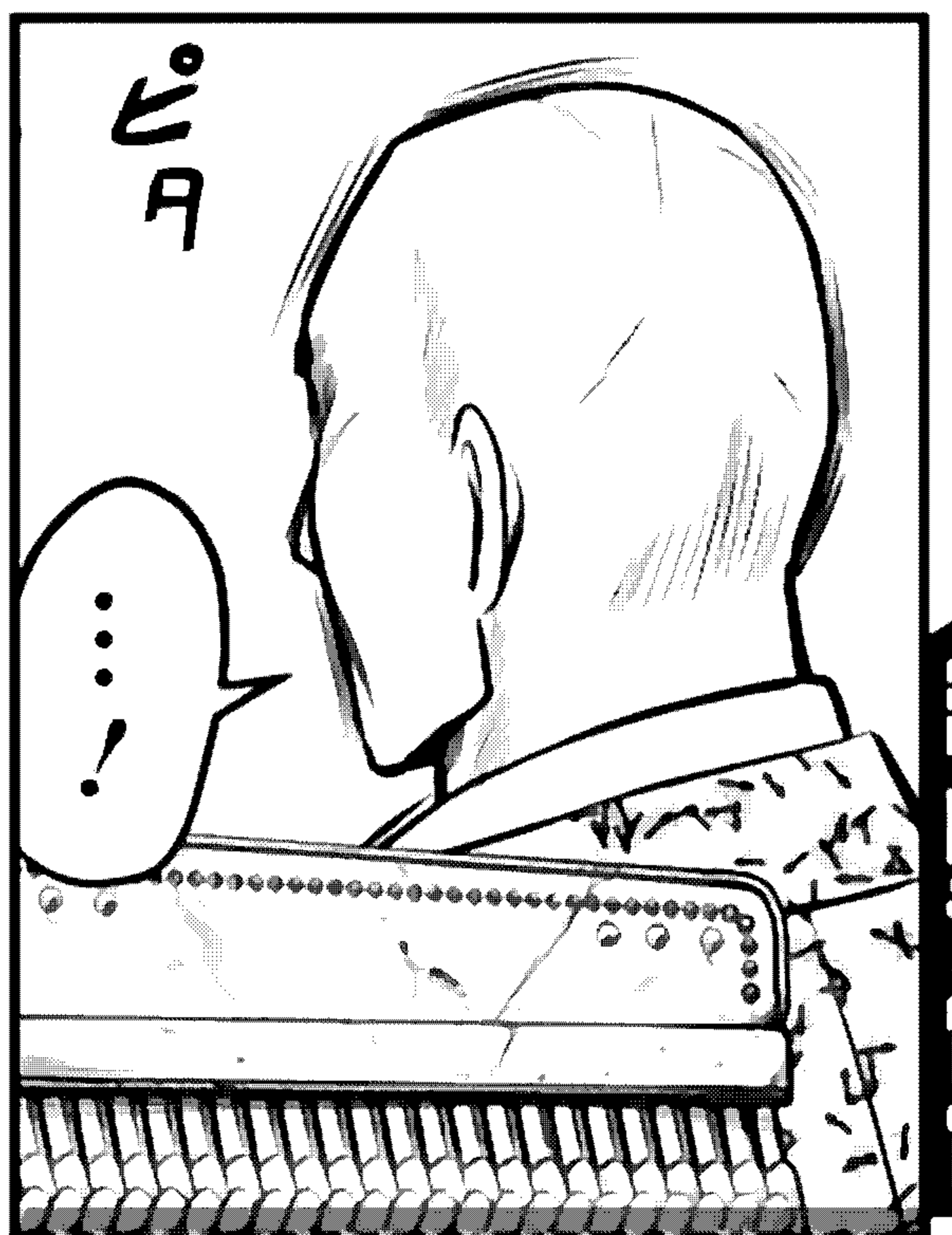
黃雀在後！



全軍
聽令

快速通過
前方路段

這是為何？





右上方是
開闊的懸崖
左下方是深川

若崖上
有弓兵就正中
對方下懷了



據偵察
所見的賴重軍
兵力

應該無法
在這樣的山中
隱藏三百騎士兵



：戒備
過頭了嗎

這片地形
很容易
快速通過

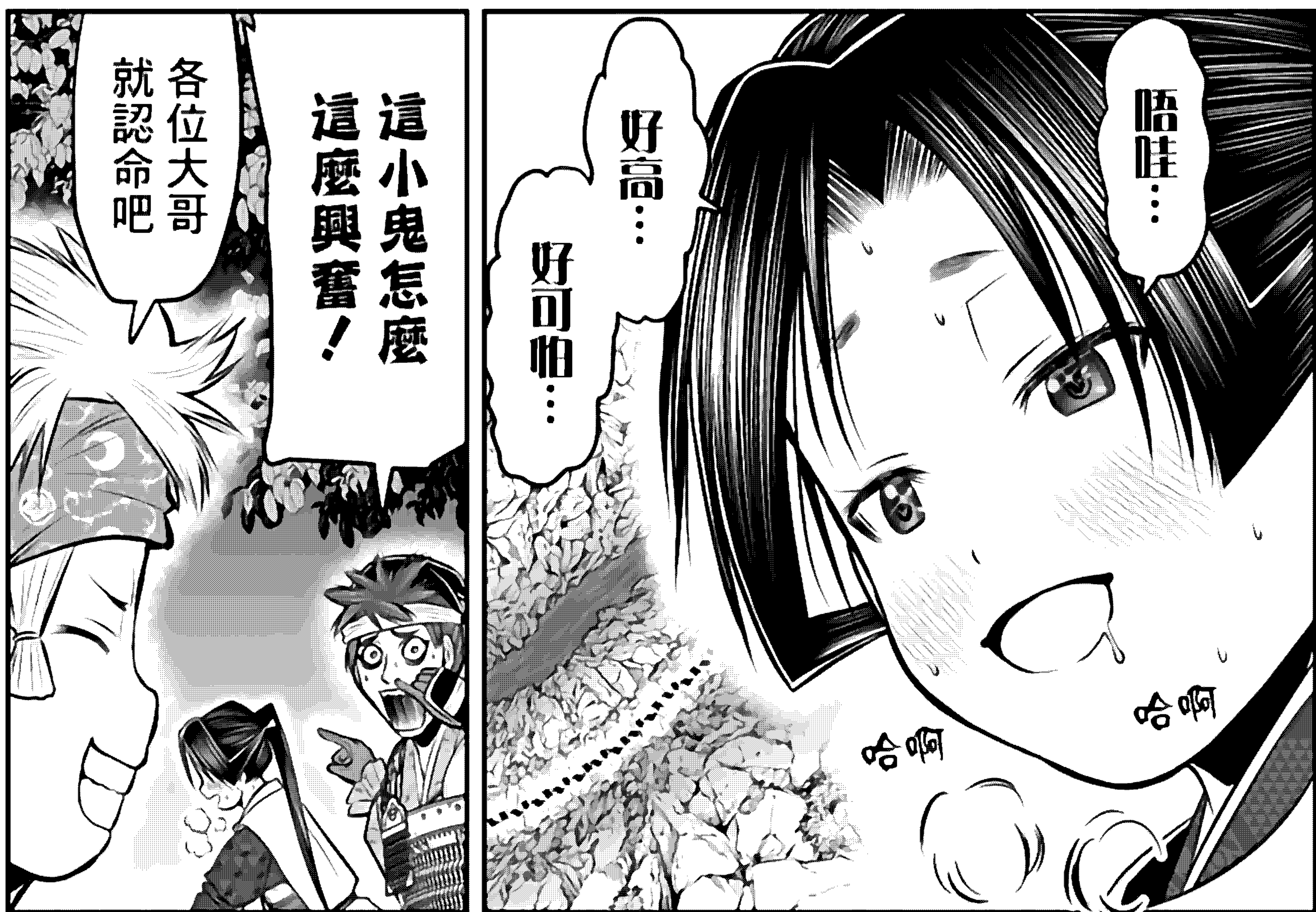
靠弓箭消滅我等
至少需要
三百騎弓兵



萬一遭襲也
不必驚慌
只管默默趕路

出發

遵命



我要去觸碰
懸崖邊上的
御柱

和賴繼殿下
玩捉迷藏
把它定位目標時

在那之前
如果你沒
住我
家

我就在想
那個究竟是
用來做什麼的……

嗯

信濃子民
七年一度
就會沉迷於
那個活動

多麼
亂來啊……

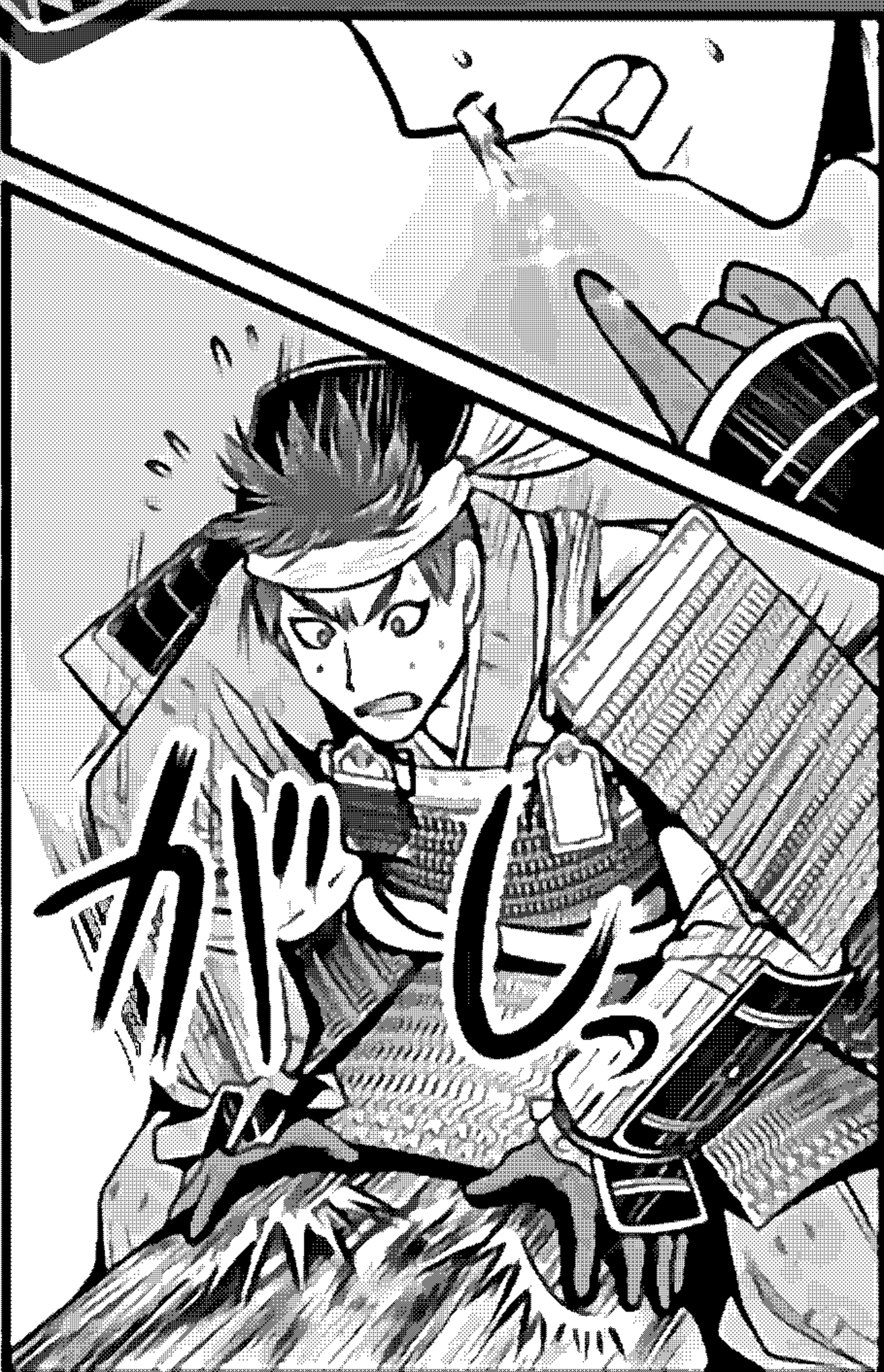
信濃居然有
這麼棒的祭典……

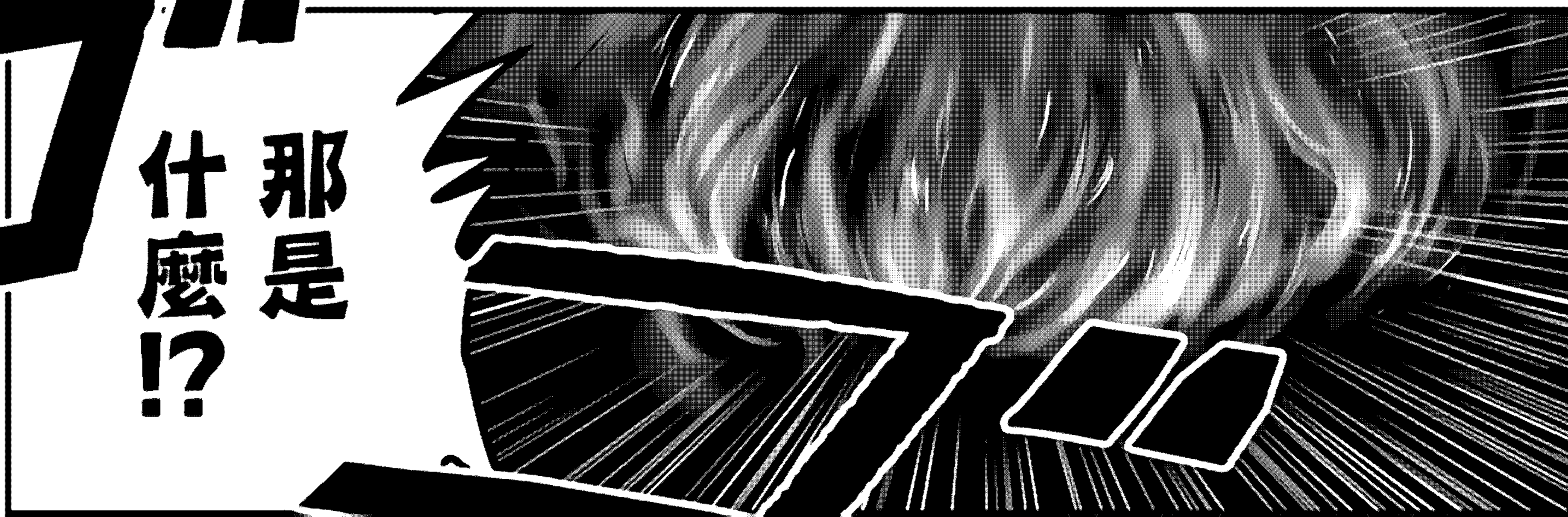
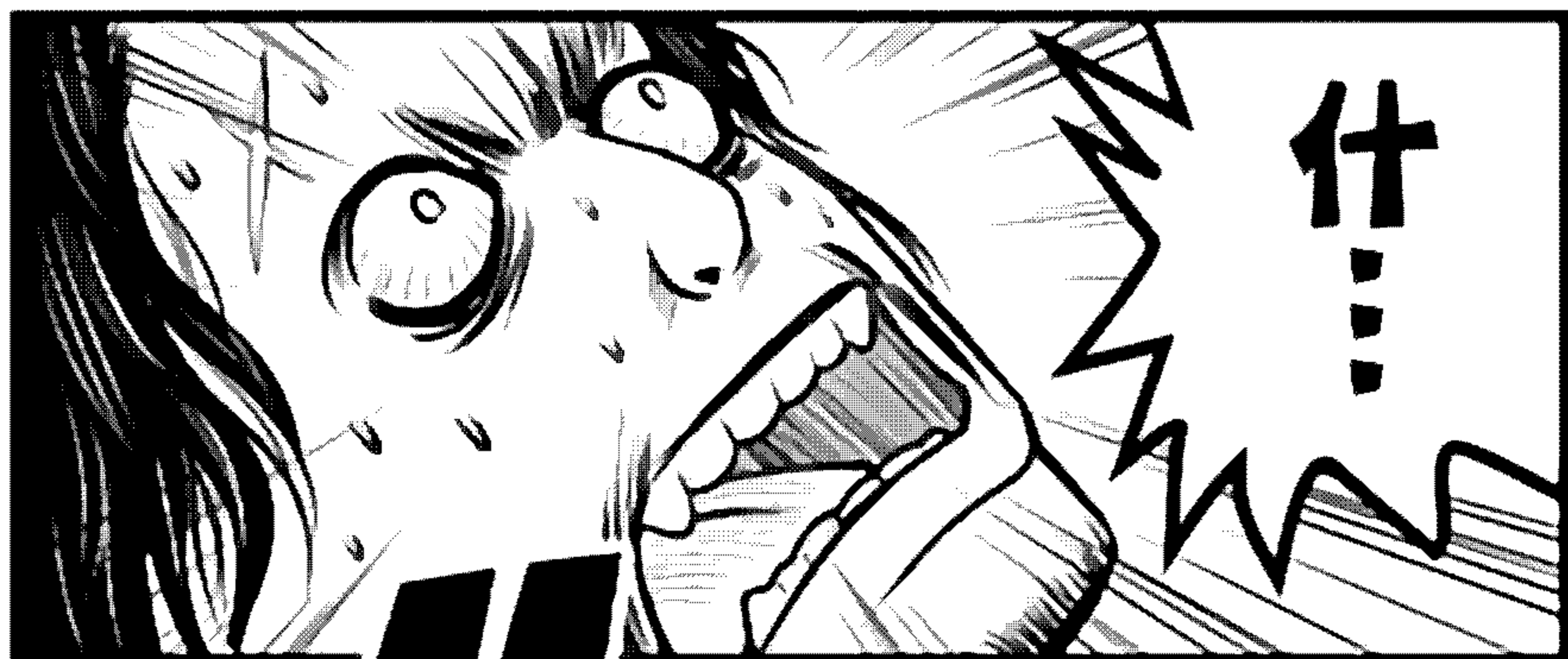
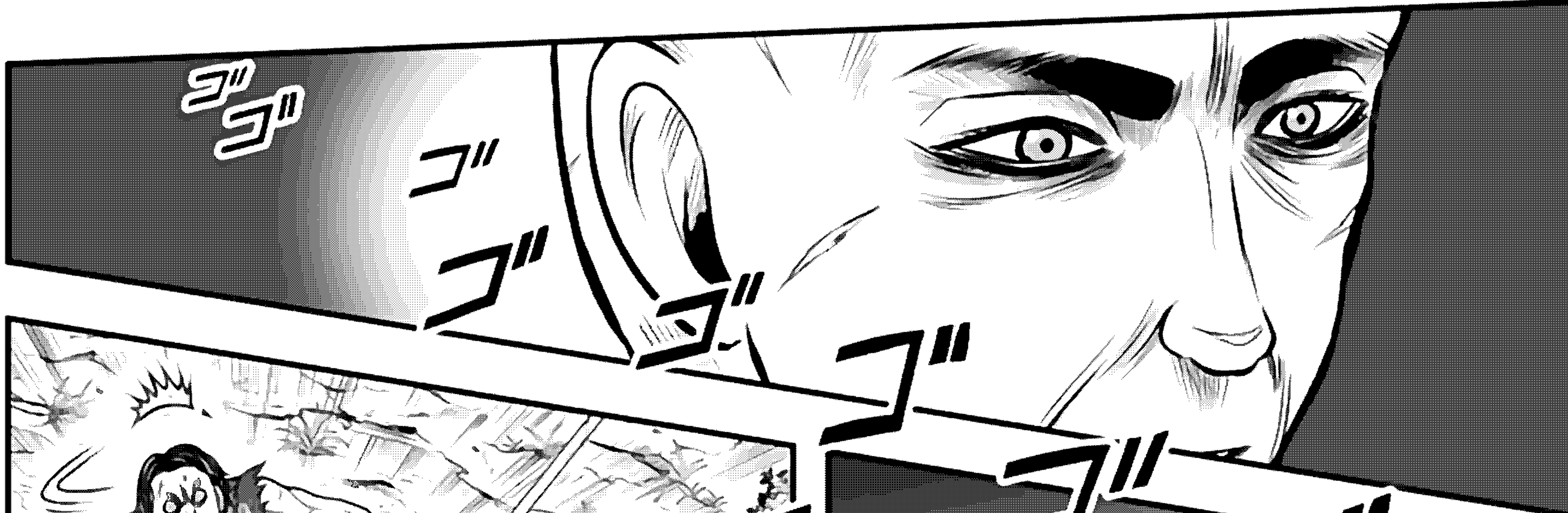
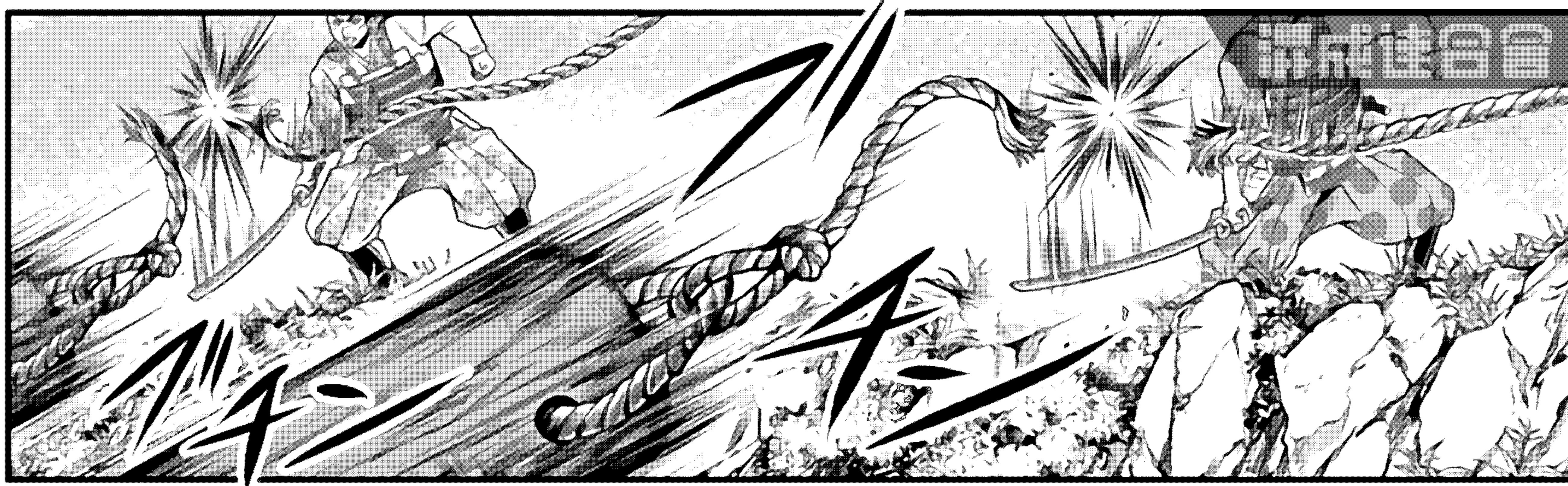
興奮

興奮

來吧各位！

出擊！









談談談！

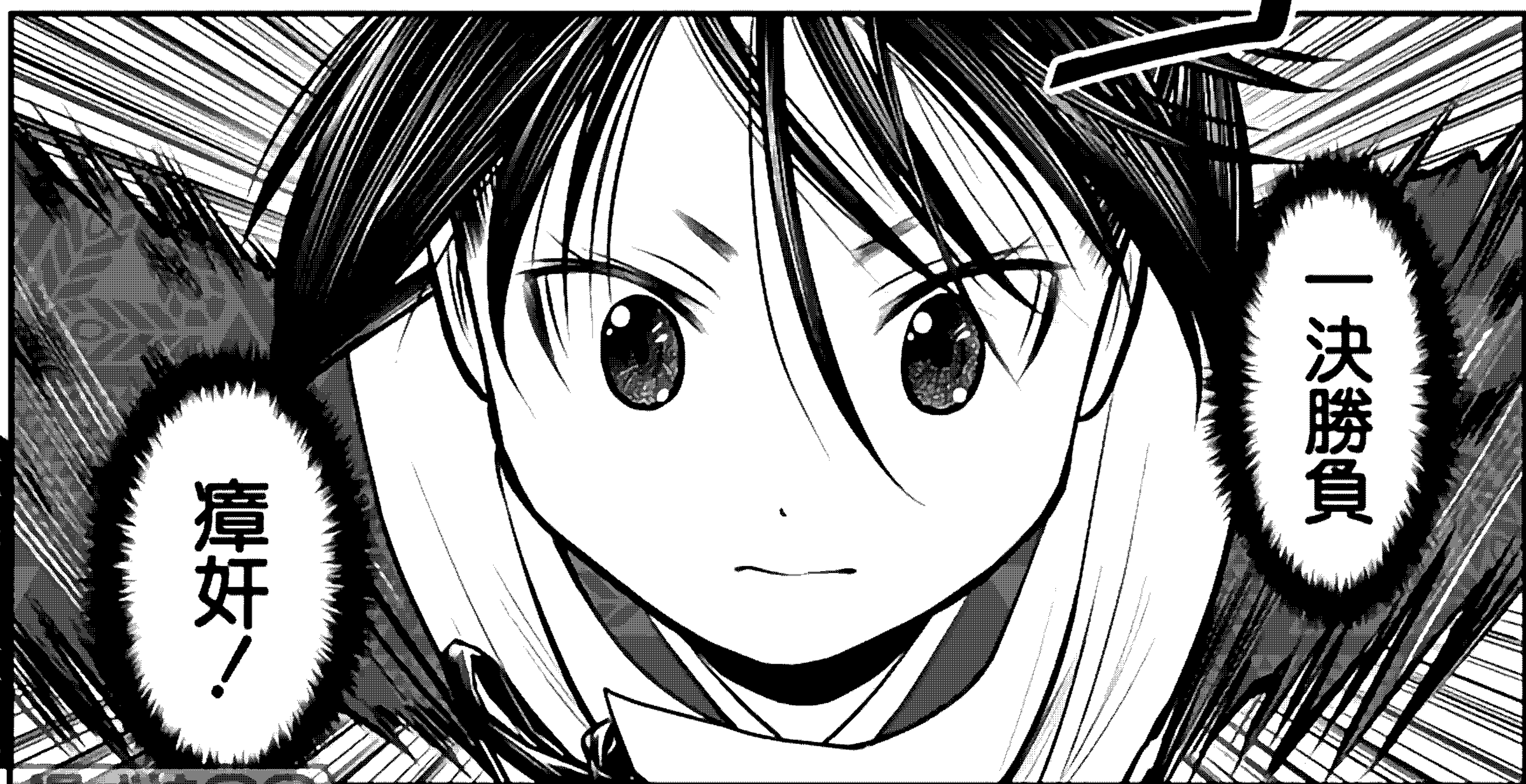
大批
著火的東西
沖下來了！



火牛計！？

不對

牛是攀不上
那種
懸崖的！

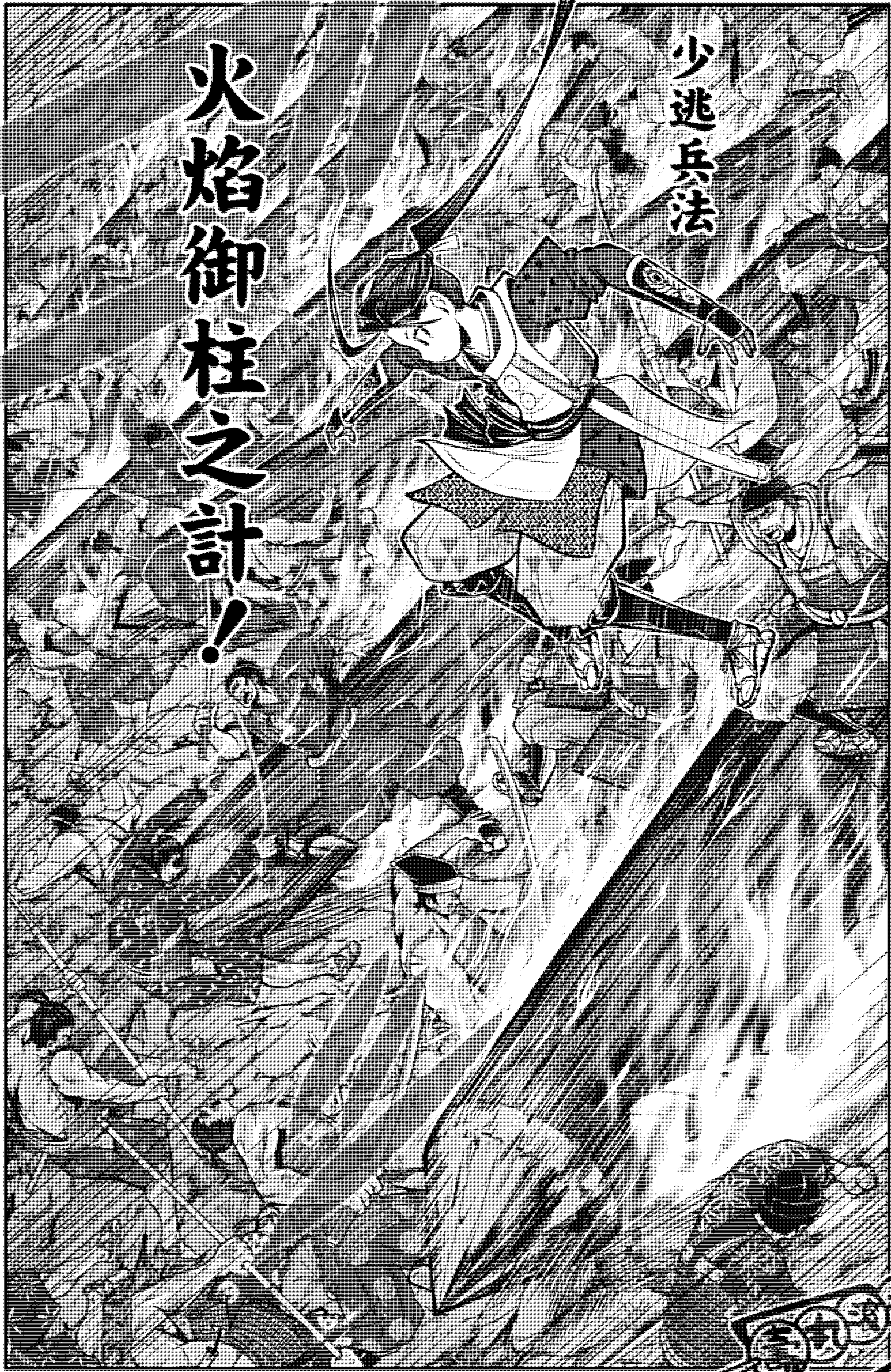


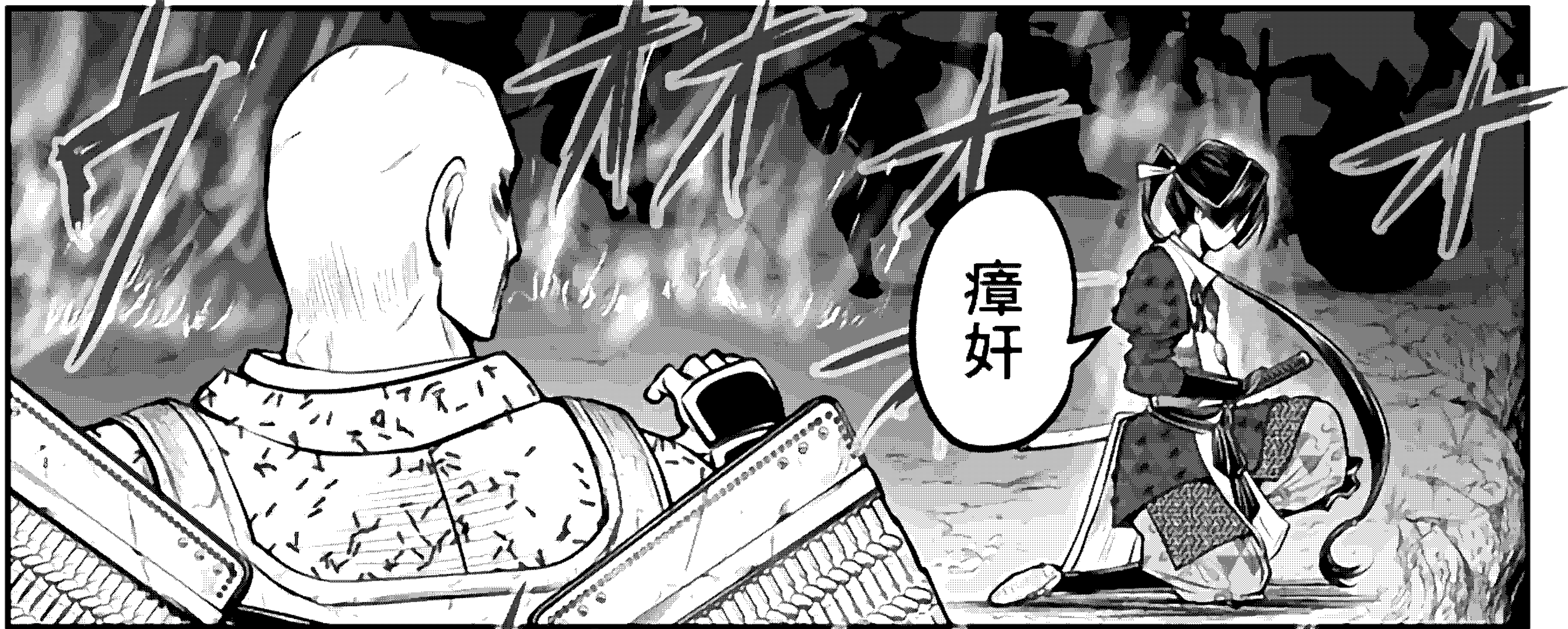
一決勝負

痺奸！

少逃兵法

火焰御柱之計！





★為孽緣畫下句點!!

禁營利禁講漫禁盜轉

@

要以
總帥的身份
擊潰你

我今天

少主溜得快

第62話
／本話完

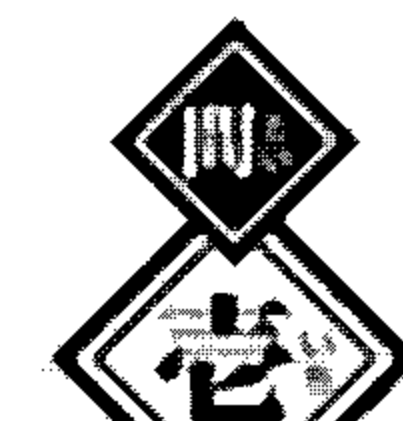
解説上手の若君

時行が装備した軽い鎧。当時は鎧のあり方が変化する時代！

解説 本郷和人

1960年、亀有生まれ。歴史の研究者である東京大学史料編纂所の教授。おっちゃんとしてテレビや雑誌にも出演する。

当時の鎧について



当時の戦いではどんな鎧を身に着けていたの？

源平の合戦の頃の正式な鎧は「大鎧」と呼ばれるものです。埴輪が着けている「挂甲」がどのような経過をたどって大鎧になったのか、細かいところは明らかにないのですが、だいたい平安時代中期頃には基本形式が確立したと考えられています。当時の合戦の形は馬上で弓矢を撃ち合うものでしたから騎乗の高級武士が着用する鎧として普及しました。

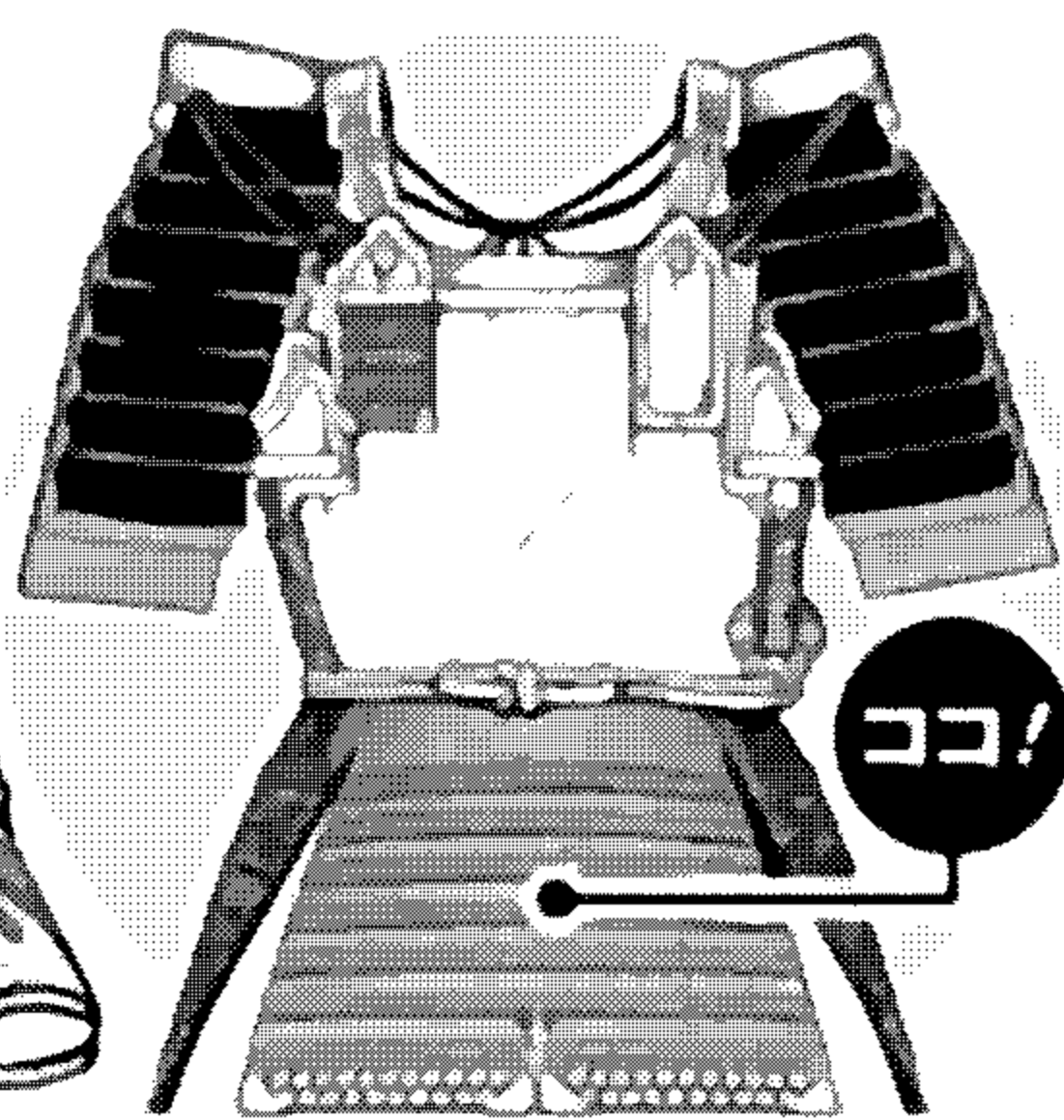


↑子供用でもかなり重い大鎧。フル装備は力が弱く、素早さを重視する時行には、非常に相性が悪い。

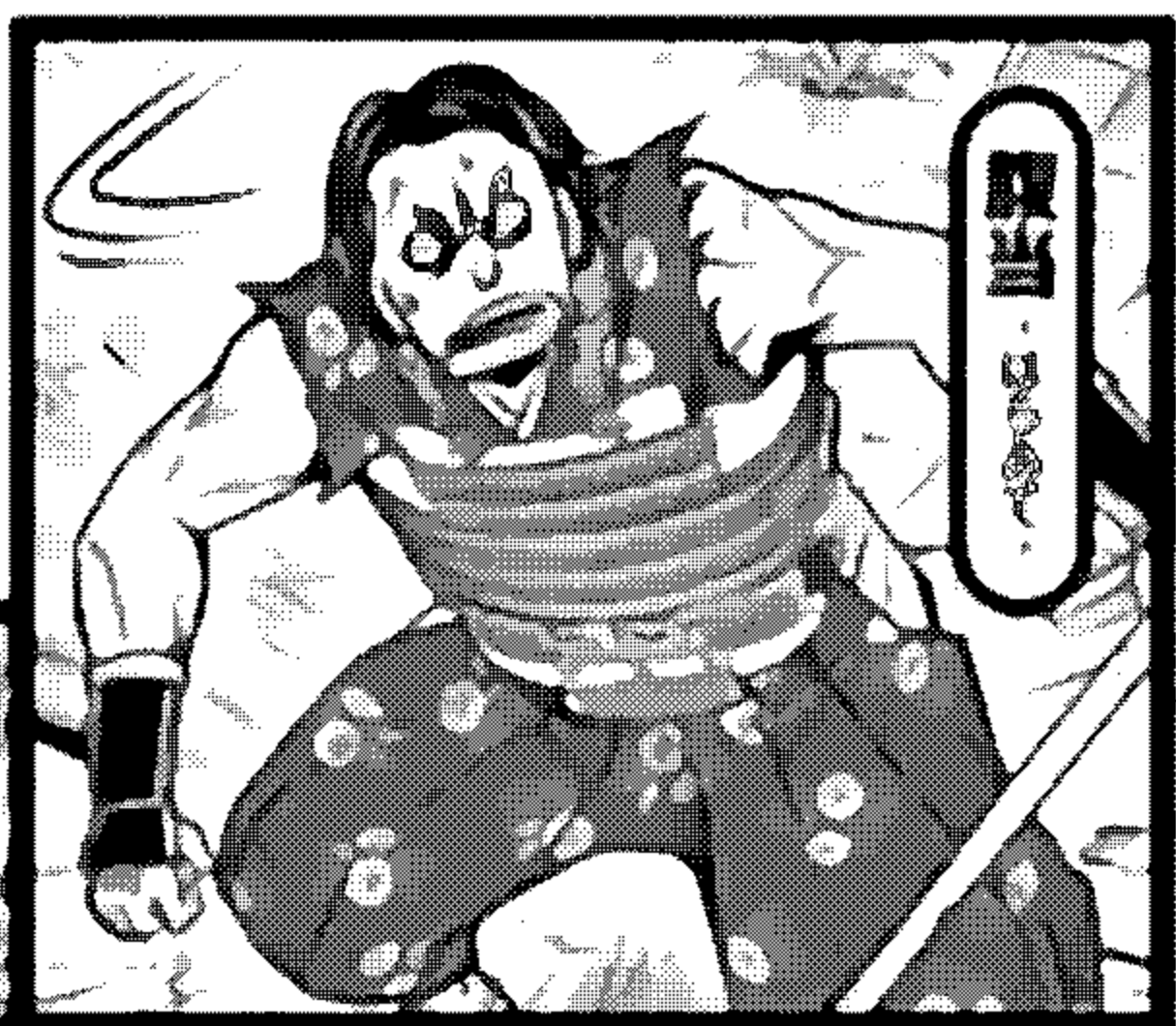


After

「草摺」とは？



↑防衛力を残しつつ、機動力を重視した時行専用装備。デザインも最高にクール！



↑草摺が小形だと、「腹当」と呼ばれる。戦いの変化に合わせて鎧もバリエーション豊かに。

↑大鎧は、刀や矢を通さない鉄製の防衛力を誇るが、重いので動きが鈍くなる。敵に囲まれると不利。

その特徴はなんといっても重量です。本編にあるように、正式なものは30キロの重さがありました。なぜかといえば、敵の矢が飛んできても、それを跳ね返せるように、皮を分厚く巻いてあるためです。日本の馬は走るスピードはさほど速くはありませんでしたが、重さには耐えてくれましたので、鎧は重くてもOKだったのです。ところが南北朝時代頃には集団戦・徒歩戦が盛んになりますので、それに対応するべく大鎧に代わって「胴丸」とか「腹巻」が多く用いられるようになります。本来的には「大鎧」の省略版として用いられた「胴丸」などが、上級武士にも使われるようになる。つまり本作品の時期には「大鎧」「胴丸」「腹巻」3つが並存していたわけです。本質的にどう変化したのか。これまた、重さです。20〜30キロの大鎧を着ては、人間は動けません。集団で襲ってくる雑兵の餌食です。ですから、鎧の軽量化が図られました。時行の願いは、すべての武士の願いだったのです。

では形をどこで見分けるのか。分かりやすいのは草摺の数です。草摺は腰から下を守るもので、「大鎧」の場合は前後左右の4枚から構成されます。馬に乗っているのが基本なので、この形になります。これに対し、「胴丸」は足さばきを重視して8枚に、「腹巻」は5〜7枚になっています。この作品より少し後に7枚、というのが決まりました。



卷末語

今年沒能乘上御柱的
諏訪人民，希望本週的故事
能讓各位在心裡過一把癮

翻譯

我不做人了

校對

古々谷殘丘

嵌字

小呱
吟

順位 11 / 21

W J 2 0 2 2 N O 2 4

測試群

648466051

首發微博

@混成連合會

壽丸滾滾漢化

歡迎加入漢化

第 62 話

少主溜得快

監製

三十二

招募案

首發微博
@混放連合會
測試群
648466051
(翻譯&教字)

翻譯
日語限定
過了測試就
有2-3輪測試
依情況而定

嵌字
細心
且有一定空閑時間
通過測試即可
需基礎可教學
測試時限3個月

混放連合會